

感染症発生動向調査情報に基づく埼玉県の患者発生状況

- 2023 年 -

馬場穰太郎 宜保輝*1 鈴木理央*2 尾上恵子*3 鹿島かおり 尾関由姫恵

Infectious disease surveillance reports in Saitama Pref. in 2023

Jotaro Baba, Hikaru Gibo, Rio Suzuki, Keiko Onoue, Kaori Kashima, Yukie Ozeki

はじめに

感染症発生動向調査事業は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」の第 12 条から 16 条に基づく全国サーベイランスである。この事業は一類から五類感染症、新感染症及び新型インフルエンザ等感染症の患者を診断した医師からの届出を受け、感染症の地域的な流行の実態を早期かつ的確に把握し、その情報を速やかに還元するものである。当所では 2004 年から「感染症発生動向調査事業実施要綱」に基づく基幹地方感染症情報センターとして、埼玉県における感染症の発生についての情報収集、解析及び提供を行っている。

2023 年の感染症発生動向調査事業では、感染症法第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」の一部改正が行われた。新型コロナウイルス感染症については、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則が改正（令和 5 年厚生労働省令第 118 号）され、法上の位置づけが 5 類感染症となったことに伴う疾患の定義、臨床的特徴及び届出基準の変更（5 月 8 日）があった。さらに、同施行規則の改正（令和 5 年厚生労働省令第 118 号）により入院者の届出が規定されたことから、基幹定点における入院患者の届出基準の追加（9 月 25 日）が行われた。また、サル痘及びカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の名称がそれぞれ、エムボックス及びカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症に変更された（5 月 26 日）。

今回は 2023 年の感染症発生動向調査に基づく埼玉県の患者発生状況について報告する。

対象及び方法

感染症法に定められる感染症について、埼玉県基幹地方感染症情報センターとしてさいたま市、川越市、越谷市及び川口市を含む全域から収集した届出を対象とした。新型コロナウイルス感染症を除く疾患の届出数の集計には、従来と同じく感染症サーベイランスシステム（National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease :

NESID）の感染症発生動向調査システムに登録された 2024 年 2 月時点の確定数をダウンロードして用いた。なお、2023 年 5 月 7 日までの新型コロナウイルス感染症は、埼玉県新型コロナウイルス感染症対策本部で収集した情報を用いた。

全数把握対象疾患は診断日が 2023 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日に属する届出を、定点把握対象疾患のうち、週単位報告対象疾患は 2023 年第 1 週（2023 年 1 月 2 日～2023 年 1 月 8 日）から 52 週（2023 年 12 月 25 日～2023 年 12 月 31 日）まで、月単位報告対象疾患は、2023 年 1 月から 12 月までの報告を対象とした。定点当たり報告数は、定点における患者数を各週もしくは各月における定点数で除した値とした。定点当たり報告患者総数は、累積報告患者数を平均定点数で除した値とした。なお、平均定点数は、インフルエンザ定点数・小児科定点数・眼科定点数は小数点以下を切り捨て、性感染症定点数・基幹定点数は小数点第 2 位以下を切り捨てた。年齢別の集計は、全数把握対象疾患では 10 歳ごとの階級に分け、定点把握対象疾患では感染症発生動向調査事業の報告書式の年齢階級を適用した。

結果

1 全数把握対象疾患の発生状況

一類から三類感染症の届出数を表 1-1 に、四類感染症を表 1-2 に、五類全数把握対象疾患を表 1-3 に、新型インフルエンザ等感染症を表 1-4 にそれぞれ示した。

(1) 一類感染症

一類感染症は疑似症を含め届出はなかった。

(2) 二類感染症

二類感染症は、結核 761 例の届出があった。性別では男 465 例、女 296 例であった。類型別では患者 522 例、無症状病原体保有者（潜在性結核感染症）238 例、感染症死亡者の死体 1 例であった。

男では患者が 334 例、無症状病原体保有者が 131 例であった。年齢階級別では 60 歳以上が 62.4%で、70 歳代 102 例、80 歳代 99 例の順に多かった。女では患者が 188 例、無症状病原体保有者が 107 例、感染症死亡者の死体 1 例であった。年齢階級別では 60 歳以上が 64.9%で、最

*1 現 食肉衛生検査センター

*2 現 熊谷保健所

*3 現 鴻巣保健所

も多い年代は80歳代の82例であった。

年代別の患者の経年推移では、15-64歳は2022年までは減少が続いたものの、2023年は増加した。また、小児(0-14歳)の報告は無かった。

(3) 三類感染症

三類感染症は、細菌性赤痢9例、腸管出血性大腸菌感染症167例、腸チフス3例、パラチフス1例であった。

表 1-1 一類、二類、三類感染症の届出数

	疾患名	埼玉県		
		2023年	2022年	2021年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	761	757	834
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	中東呼吸器症候群	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0
	細菌性赤痢	9	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	167	144	136
	腸チフス	3	1	2
	パラチフス	1	0	0

1) 細菌性赤痢

2020年以来発生が無かった細菌性赤痢は、2023年は男7例、女2例の計9例の届出があった。症例の年齢は10歳代から60歳代に分布しており、類型別では、患者4例、無症状病原体保有者5例であった。いずれも診断方法は、便からの分離・同定による病原体の検出であり、菌種は *Shigella flexneri* (B群) の検出が6例、*Shigella sonnei* (D群) の検出が3例であった。推定感染地域は、国外6例(インドネシア4例、インド1例、フィリピン1例)、国内2例、不明1例であった。

2) 腸管出血性大腸菌感染症

男68例、女99例の計167例の届出があり、前年の144例より増加した。症例の年齢は2歳から80歳代に分布した。年齢階級別では、20歳代が45例と最も多く、次いで50歳代が27例であった。類型別では、患者111例、無症状病原体保有者56例で、両者とも前年と比べて増加しており、患者数は2021年以降増加傾向が続いている。月別の届出数は6月及び9月が最も多く、共に26例であった。また、例年の流行期に該当する6月～9月の届出数は101例であり、前年の91例と比べて増加した。

患者におけるO血清型別の割合は、O157が71.2%(79例)、O26が9.0%(10例)で、前年に比べO157は同水準であり、O26は減少した。その他の血清型はO111が7例、O18及びO121が各3例、O103が2例、

O48v、O74、O128、O156及びO167が各1例、OUTが2例の計22例であった。なお、無症状病原体保有者では、O157が30例(O157・O26同時検出1例を含む)、O26が5例、O103が5例、O43、O91、O111、O128及びO146が各2例、O9、O48v、O100、O115及びO148が各1例、その他にOUTが1例であった。

溶血性尿毒症症候群(HUS)患者は、20歳代及び60歳代の女で各1例の発症が確認された。検出された大腸菌のO血清型及び毒素型は共にO157:H7 VT2であった。

3) 腸チフス

男2例、女1例の計3例の届出があった。類型は患者が3例であり、年齢は10歳未満、20歳代、40歳代で各1例であった。診断方法は3例とも分離・同定による病原体の検出であり、検体は血液が1例、便が1例、血液及び便が1例であった。推定感染地域は国外2例(バングラデシュ)、国内1例であった。

4) パラチフス

2018年以来発生が無かったパラチフスは、2月に10歳未満の女1例の届出があった。類型は患者で、診断方法は血液及び便からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域はネパールであった。

(4) 四類感染症

四類感染症は、E型肝炎43例、A型肝炎3例、エムボックス5例、オウム病1例、つつが虫病3例、デング熱9例、マラリア2例、ライム病1例、レジオネラ症112例の計179例であった。

1) E型肝炎

男34例、女9例の計43例の届出があり、前年の35例より増加した。症例の年齢は9歳から80歳代に分布し、50歳代が14例で最も多く、次いで60歳代が11例であった。類型は患者が37例、無症状病原体保有者が6例で、診断方法はPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgA抗体の検出が11例、PCR法による病原体遺伝子の検出のみが4例、血清IgA抗体の検出のみが28例であった。推定感染経路は経口感染25例、不明18例で、推定感染地域は国内40例、不明3例であった。届出は年間を通して確認され、無症状病原体保有者の6例のうち5例は献血、1例は定期健診により探知された症例であった。

2) A型肝炎

女3例の届出があり、前年と同数であった。類型は全て患者で、症例の年齢は10歳未満、20歳代及び50歳代が各1例であった。診断方法は血清IgM抗体の検出のみが1例、検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出及び血清IgM抗体の検出が2例であった。推定感染経路は、経口感染が1例、不明が2例で、推定感染地域は国内が2例、国外が1例であった。また、ワクチン接種歴は、全て無しであった。

3) エムボックス

2023年5月26日にサル痘から名称変更された。前年

までは発生がなかったが、2023 年は男 5 例の届出があった。症例の年齢は 20 歳代から 50 歳代に分布した。全例で類型は患者で、診断方法は核酸増幅法による病原体遺伝子の検出であった。また、全例で推定感染経路は接触感染（性的接触）で、推定感染地域は国内であった。

4) オウム病

過去 10 年で 4 例（2015 年、2018 年、2019 年、2022 年）の届出があったオウム病は、8 月に男 80 歳代 1 例の届出があった。類型は患者で、診断方法は間接蛍光抗体法による血清抗体の検出であった。推定感染経路は不明で、推定感染地域は国内（県内）であった。

5) つつが虫病

前年発生がなかったつつが虫病は 5 月に 70 歳代の男 1 例と 20 歳代の女 1 例、12 月に 60 歳代の男 1 例の計 3 例の届出があった。診断方法はすべて PCR 法による病原体遺伝子の検出で、推定感染地域はすべて国内（うち県内が 2 例）であった。

6) デング熱

男 9 例の届出があり、前年の 2 例を上回った。症例の年齢は 10 歳代から 40 歳代に分布した。病型は、デング熱が 8 例、デング出血熱が 1 例であった。診断方法は、非構造蛋白抗原（NS1）の検出のみが 4 例、PCR 法による病原体遺伝子の検出及び非構造蛋白抗原（NS1）の検出が 4 例、PCR 法による病原体遺伝子の検出のみが 1 例であった。推定感染地域はベトナムが 3 例、スリランカ、フィリピン、インドネシア、ネパール、インド、モルディブが各 1 例であった。

7) マラリア

11 月に 30 歳代の男、12 月に 10 歳代の男の計 2 例の届出があり、前年の 2 例と同数であった。病型は共に熱帯熱であった。診断方法は、前者が血液検体の鏡検による病原体の検出で、後者は血液検体の鏡検による病原体の検出及び血液検体の PCR 法による病原体遺伝子の検出であった。推定感染地域は前者がカメルーン、後者がタンザニアであった。

8) ライム病

過去 10 年で 1 例（2014 年）の届出があったライム病は、7 月に 30 歳代の男 1 例の報告があった。診断方法はウエスタンブロット法による血清抗体の検出で、推定感染地域は国内であった。

9) レジオネラ症

男 96 例、女 16 例の計 112 例の届出があり、前年の 96 例を上回った。症例の年齢は 30 歳代から 100 歳代に分布し、70 歳代が 35 例で最も多かった。類型は患者 109 例、無症状病原体保有者 3 例で、患者の病型別では肺炎型 107 例、ポンティアック熱型 2 例であった。

年間を通して届出はあったが、6 月が 29 例と最も多かった。診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が 104 例、PCR 法または

LAMP 法による病原遺伝子の検出が 21 例、分離・同定による病原体の検出が 16 例、蛍光抗体法による病原体抗原の検出が 3 例、マイクロプレート凝集法による血清抗体の検出が 1 例であった（重複例有り）。推定感染地域は、国内 94 例、不明 18 例で、国内感染例のうち県内は 72 例であった。

表 1-2 四類感染症の届出数

疾患名	埼玉県		
	2023年	2022年	2021年
E型肝炎	43	35	36
ウエストナイル熱	0	0	0
A型肝炎	3	3	2
エキノコックス症	0	0	0
エムボックス	5	0	0
黄熱	0	0	0
オウム病	1	1	0
オムスク出血熱	0	0	0
回帰熱	0	0	0
キャサヌル森林病	0	0	0
Q熱	0	0	0
狂犬病	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0
ジカウイルス感染症	0	0	0
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0
西部ウマ脳炎	0	0	0
ダニ媒介脳炎	0	0	0
炭疽	0	0	0
チクングニア熱	0	0	0
つつが虫病	3	0	3
デング熱	9	2	0
東部ウマ脳炎	0	0	0
鳥インフルエンザ ^(H5N1及びH7N9を除く)	0	0	0
ニパウイルス感染症	0	0	0
日本紅斑熱	0	0	0
日本脳炎	0	0	0
ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
Bウイルス病	0	0	0
鼻疽	0	0	0
ブルセラ症	0	0	0
ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
発しんチフス	0	0	0
ポツリヌス症	0	0	0
マラリア	2	2	2
野兔病	0	0	0
ライム病	1	0	0
リッサウイルス感染症	0	0	0
リフトバレー熱	0	0	0
類鼻疽	0	0	0
レジオネラ症	112	96	99
レプトスピラ症	0	0	1
ロッキー山紅斑熱	0	0	0

(5) 五類感染症

五類感染症は、アメーバ赤痢 28 例、ウイルス性肝炎（E 型・A 型を除く）7 例、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 71 例、急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）6 例、急性脳炎 39 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 9 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 64 例、後天性免疫不全症候群 32 例、ジアルジア症 3 例、侵襲性インフルエンザ菌

感染症 9 例, 侵襲性髄膜炎菌感染症 2 例, 侵襲性肺炎球菌感染症 81 例, 水痘 (入院例) 13 例, 梅毒 464 例, 播種性クリプトコックス症 7 例, 破傷風 4 例, バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 例, 百日咳 79 例, 風しん 1 例, 薬剤耐性アシネトバクター感染症 1 例の計 922 例であった。

表 1-3 五類感染症の届出数(全数把握)

疾患名	埼玉県		
	2023年	2022年	2021年
アメーバ赤痢	28	24	19
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	7	6	10
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	71	72	95
急性弛緩性麻痺	6	1	1
急性脳炎	39	35	20
クリプトスポリジウム症	0	0	0
クロイツフェルト・ヤコブ病	9	7	4
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	64	41	30
後天性免疫不全症候群	32	27	28
ジアルジア症	3	0	4
侵襲性インフルエンザ菌感染症	9	4	6
侵襲性髄膜炎菌感染症	2	1	0
侵襲性肺炎球菌感染症	81	47	57
水痘(入院例)	13	10	15
先天性風しん症候群	0	0	0
梅毒	464	469	287
播種性クリプトコックス症	7	10	10
破傷風	4	3	3
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	1	0
百日咳	79	13	43
風しん	1	2	1
麻しん	0	0	1
薬剤耐性アシネトバクター感染症	1	1	0

1) アメーバ赤痢

男 28 例の届出があり, 前年の 24 例を上回った。症例の年齢は 60 歳代が 8 例, 40 歳代, 50 歳代及び 70 歳代が各 6 例, 30 歳代及び 80 歳代が各 1 例であった。病型別では腸管アメーバ症 27 例, 腸管及び腸管外アメーバ症が 1 例であった。診断方法は, 腸管アメーバ症では, 鏡検による病原体の検出が 27 例であった。腸管及び腸管外アメーバ症では, 鏡検による病原体の検出及び検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出であった。推定感染経路は性的接触が 8 例, 経口感染が 6 例, 不明 14 例で, 性的接触の内訳は異性間性的接触が 4 例, 同性間性的接触が 3 例, 異性間・同性間不明性的接触 1 例であった。推定感染地域は, 国内 21 例, 国外 3 例, 不明 4 例であった。

2) ウイルス性肝炎 (E 型・A 型を除く)

B 型肝炎 4 例, C 型肝炎 1 例, その他のウイルス性肝炎 2 例の計 7 例の届出があった。

B 型肝炎は 20 歳代及び 30 歳代の男 4 例の届出があった。いずれも, 診断方法は血清 IgM 抗体 (HBc 抗体) の検出であった。ウイルスの遺伝子型は A 型が 1 例, B 型が 1 例, 不明が 2 例であった。推定感染経路は性的接触が 3 例, 不明が 1 例で, 性的接触の内訳は同性間が

2 例, 異性・同性不明が 1 例であった。また, 推定感染地域はいずれも国内であった。

C 型肝炎は 9 月に男 50 歳代 1 例の届出があった。診断方法は血清での HCV 抗体陰性, かつ HCV RNA 又は HCV コア抗原の検出であった。推定感染経路は不明で, 推定感染地域は国内であった。

その他のウイルス性肝炎は, エプスタイン・バー ル・ウイルス (EBV) による肝炎が 2 月に男 40 歳代 1 例, 4 月に女 20 歳代 1 例の計 2 例の届出があった。推定感染経路は前者が不明, 後者が異性・同性不明性的接触で, 推定感染地域はいずれも国内であった。

3) カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症

男 45 例, 女 26 例の計 71 例の届出があった。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代まで幅広く分布したが, 60 歳以上が 59 例で全体の 83.1% であった。症状は菌血症・敗血症及び尿路感染症が各 29 例, 胆嚢炎・胆管炎が 13 例, 肺炎が 9 例, 腸炎・腹膜炎が 5 例であった (重複例有り)。検査検体で多かったのは, 血液及び尿で各 28 検体であった (重複例有り)。

分離された菌は多い順に *Klebsiella aerogenes* が 31 株, *Enterobacter cloacae* complex が 21 株, *Klebsiella pneumoniae* が 7 株, *Escherichia coli* が 6 株, *Serratia marcescens* が 3 株, *Klebsiella oxytoca* が 2 株, *Citrobacter braakii* が 1 株報告された。

4) 急性弛緩性麻痺

男 5 例, 女 1 例の計 6 例の届出があり, 前年の 1 例より増加した。症例の年齢は 1-4 歳及び 10-14 歳で各 2 例, 0 歳及び 5-9 歳で各 1 例であった。病原体は 7 月の女 1-4 歳の検体でコクサッキーウイルス A 群 4 型の届出があり, ほかの 5 例はいずれも不明であった。ポリオワクチンの接種歴はいずれも認められた。推定感染経路は 7 月の 1-4 歳が接触感染で, 5 例は不明であった。推定感染地域はいずれも国内であった。

5) 急性脳炎

男 19 例, 女 20 例の計 39 例の届出があり, 前年の 35 例を上回った。症例の年齢は 0 歳から 50 歳代に分布し, 1-4 歳の 22 例が最も多かった。

病原体別では, インフルエンザウイルス A 型によるものが 9 例で, 1-4 歳が 6 例, 5-9 歳が 2 例, 40 歳代が 1 例であった。その他には, 新型コロナウイルスが 3 例, 単純ヘルペスウイルス 2 型が 2 例, コクサッキーウイルス B 群 5 型, ノロウイルス及びパレコウイルス 3 型が各 1 例で, 病原体が特定されなかったのは 22 例であった。年間を通じて発生がみられたが, インフルエンザウイルスによるものは冬季を中心に発生がみられた。推定感染地域は, 国内が 37 例 (県内 34 例), 不明が 2 例であった。

6) クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD)

男 6 例, 女 3 例の計 9 例の届出があり, 前年の 7 例を上回った。症例の年齢は多い順に 70 歳代 5 例, 60 歳

代 2 例, 50 歳代及び 80 歳代が各 1 例であった。病型は, 8 例が古典型 CJD で, 8 月に届出があった男 80 歳代 1 例は家族性 CJD であった。診断の確実度は, 古典型 CJD ではほぼ確実が 6 例, 疑いが 2 例で, 家族性 CJD はほぼ確実であった。

7) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

男 26 例, 女 38 例の計 64 例の届出があり, 前年の 41 例より大きく増加し, 1999 年の感染症法施行以来, 過去最多であった。症例の年齢は 1 歳から 90 歳代に分布 (前年は 40 歳代から 100 歳代に分布) し, 60 歳以上が 36 例で全体の 56.3% (前年は 35 例, 85.4%) であった。また, 60 歳未満が 28 例 (43.8%) で, 前年 (6 例, 14.6%) より大きく増加した。届出は各月にあり, 定点把握対象疾患の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行した 11 月に 16 例, 12 月に 11 例の順に多かった。診断方法はいずれも分離・同定による病原体の検出で, 血清群は A 群が 41 例, B 群が 8 例, G 群が 14 例, 不明が 1 例であった。過去 5 年と比較して, 2023 年は A 群の届出数と割合が多かった。なお, C 群の分離はなかった。A 群の 41 例のうち T 型別検査が行われた 26 例の T 型別は, 1 型が 16 例, 12 型及び UT が各 4 例, B3264 型が 2 例であった。推定される感染経路は創傷感染が 23 例, 飛沫・飛沫核感染が 10 例, 接触感染が 3 例, その他が 6 例, 不明が 22 例で, 推定感染地域は国内が 59 例 (県内 58 例), 不明が 5 例であった。また, 64 例の届出のうち, 届出時点で 13 例の死亡が確認され, 前年の 6 例より増加した。年齢階級別では, 30 歳代で 3 例, 60 歳代, 70 歳代, 80 歳代及び 90 歳以上で各 2 例, 10 歳未満及び 40 歳代で各 1 例であった。

8) 後天性免疫不全症候群

男 32 例の届出があり, 前年の 27 例より増加した。病型別では, AIDS は 17 例, 無症状病原体保有者は 14 例, その他 (急性 HIV 感染症) は 1 例であった。

症例は 20 歳代から 70 歳代に分布し, 30 歳代が 11 例, 40 歳代が 7 例, 20 歳代及び 50 歳代が各 6 例の順に多かった。AIDS の 17 例の指標疾患の内訳は, ニューモシスティス肺炎が 9 例, カンジダ症 (食道, 気管, 気管支, 肺) が 4 例, サイトメガロウイルス感染症 (生後 1 か月以後で, 肺, 脾, リンパ節以外) 及び HIV 脳症 (認知症又は亜急性脳炎) が各 3 例, HIV 消耗性症候群 (全身衰弱又はスリム病) 及びカポジ肉腫が各 1 例であった (重複例有り)。推定される感染経路では性的接触が 30 例, 不明が 2 例で, 性的接触の内訳は同性間が 20 例, 異性間が 6 例, 異性・同性間が 1 例, 異性・同性不明が 3 例であった。

また, 病型別の年齢分布では, AIDS は 20 歳代から 70 歳代に分布し, 40 歳代及び 50 歳代が各 5 例で最も多く, 次いで 30 歳代が 4 例であった。無症状病原体保有者は 20 歳代から 50 歳代に分布し, 30 歳代が 6 例, 20 歳代が 5 例の順に多かった。

9) ジアルジア症

前年に発生がなかったジアルジア症は, 男 3 例の届出があった。いずれも診断方法は鏡検による病原体の検出, 推定感染経路は経口感染 1 例, 不明 2 例であった。推定感染地域は国内 1 例, 国外 1 例, 不明 1 例であった。

10) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

男 5 例, 女 4 例の計 9 例の届出があり, 前年の 4 例から増加した。症例の年齢は 0 歳, 1-4 歳及び 80 歳代で各 2 例, 15-19 歳, 50 歳代及び 70 歳代で各 1 例であった。診断方法は, 全て血液からの分離・同定による病原体の検出であった。ヒブワクチン接種歴は, 14 歳以下では有りが 3 例, 不明が 1 例で, 15 歳以上では無しが 1 例, 不明が 4 例であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染が 1 例, 以前からの保菌が 2 例, 不明が 6 例であった。推定感染地域は国内 (県内) 8 例, 不明が 1 例であった。

11) 侵襲性髄膜炎菌感染症

6 月に男 5-9 歳 1 例, 12 月に女 0 歳代 1 例の計 2 例届出があり, 前年の 1 例を上回った。診断方法は, 前者が検体からの直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出で, 血清群は B 群であり, 後者は分離・同定による病原体の検出及び検体からの直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出で, 血清型は Y 群であった。推定感染経路はいずれも飛沫・飛沫核感染で, 推定感染地域は国内 2 例 (県内 1 例) であった。ワクチン接種歴は前者が無しで, 後者が不明であった。

12) 侵襲性肺炎球菌感染症

男 52 例, 女 29 例の計 81 例の届出があり, 前年の 47 例と比較して大きく増加した。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代に分布し, 70 歳代が 21 例, 10 歳未満及び 80 歳代が各 17 例の順に多かった。10 歳未満では 1-4 歳が 11 例, 0 歳及び 5-9 歳が各 3 例の報告があった。診断方法は, 分離・同定による病原体の検出が 80 例, PCR 法による病原体遺伝子の検出が 5 例, イムノクロマト法による病原体抗原の検出が 3 例, ラテックス法による病原体抗原の検出が 2 例であった (重複例有り)。症状は菌血症が 73 例 (90.1%), 発熱が 64 例 (79.0%), 肺炎が 46 例 (56.8%) に認められた。ワクチン接種歴は, 10 歳未満では, 有りが 16 例, 無しが 1 例で, 10 歳代以上では, 有りが 6 例, 無しが 22 例, 不明が 36 例であった。推定感染地域は国内が 70 例 (県内 64 例), 不明 11 例であった。

13) 水痘 (入院例)

男 9 例, 女 4 例の計 13 例の届出があり, 前年の 10 例を上回った。症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布した。病型別では検査診断例が 12 例, 臨床診断例が 1 例で, 検査診断例の診断方法は, 検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出が 7 例, 分離・同定による病原体の検出が 5 例, 蛍光抗体法による抗原の検出が

1 例、抗原の検出が 1 例であった（重複例有り）。ワクチン接種歴は有りが 3 例、無しが 5 例、不明が 5 例であった。感染経路は、院内感染が 4 例、家族等からの感染（飛沫・飛沫核感染）が 2 例、不明が 7 例で、推定感染地域はいずれも国内であった。

14) 梅毒

男 326 例、女 138 例の計 464 例の届出があり、前年の 469 例とほぼ同じだった。性比（男/女）は 2.36 で、前年の 2.94 より低下した。

症例の年齢は、男では 10 歳代から 80 歳代に分布し、30 歳代の 80 例、40 歳代の 72 例の順に多かった。女では 0 歳から 80 歳代に分布し、20 歳代が 62 例と最も多く 44.9%であった。前年に比べ、男では 30 歳代及び 40 歳代で減少したものの、50 歳代及び 60 歳代では増加した。女では 30 歳代及び 40 歳代で増加した。

病型は、男では早期顕症梅毒（Ⅰ期）が 183 例、早期顕症梅毒（Ⅱ期）が 71 例、晩期顕症梅毒が 4 例、無症状病原体保有者が 68 例で、女では早期顕症梅毒（Ⅰ期）が 26 例、早期顕症梅毒（Ⅱ期）が 67 例、晩期顕症梅毒が 2 例、先天梅毒が 1 例、無症状病原体保有者が 42 例であった。なお、先天梅毒は 2015 年及び 2016 年に各 1 例、2018 年に 2 例、2020 年に 5 例、2021 年及び 2022 年に各 2 例、2023 年に 1 例と継続的に届け出がある。推定感染経路は、男では性的接触が 282 例、静注薬物常用が 1 例、不明が 44 例であった（重複例あり）。女では性的接触が 121 例、母子感染が 1 例、不明が 16 例であった。性的接触の内訳では、異性間が男女共に最も多く、男が 222 例、女が 107 例であった。性風俗産業の直近 6 か月以内の利用歴・従事歴は、利用歴が男の 45.1%、従事歴が女の 18.1%に認められ、女の性風俗産業の従事歴の割合は前年の 31.1%から減少した。HIV 感染症との合併は男 16 例、妊娠は女 15 例に認められ、妊娠は前年の 9 例から増加した。また、推定感染地域は国内が 385 例、不明が 79 例であった。

15) 播種性クリプトコックス症

男 5 例、女 2 例の計 7 例の届出があり、前年の 10 例を下回った。症例の年齢は 80 歳代で 4 例、10 歳代、60 歳代及び 70 歳代で各 1 例であった。診断方法は、分離・同定による病原体の検出が 7 例、病理組織学的診断が 2 例、ラテックス凝集法によるクリプトコックス莢膜抗原の検出が 1 例であった（重複例有り）。感染原因では、ステロイド内服等による免疫不全が 6 例、不明が 1 例であった。推定感染地域はいずれも国内であった。

16) 破傷風

男 3 例、女 1 例の計 4 例の届出があった。症例の年齢は 30 歳代から 80 歳代に分布した。いずれも、診断方法は臨床決定であった。推定感染経路は創傷感染が 3 例、その他（畑仕事）が 1 例であった。推定感染地域はいずれも国内（県内）であった。破傷風含有ワクチ

ンの接種歴は、有り及び不明が各 2 例であった。

17) バンコマイシン耐性腸球菌感染症

6 月に女 70 歳代 1 例、12 月に男 80 歳代 1 例の計 2 例の届出があり、前年の 1 例を上回った。診断方法はいずれも分離同定による腸球菌の検出で、MIC (Minimum inhibitory concentration) 測定が行われており、前者は膿と便から、後者は喀痰から *Enterococcus faecium* が分離されていた。推定感染経路はいずれも不明で、推定感染地域は前者が国内、後者が不明であった。

18) 百日咳

男 33 例、女 46 例の計 79 例の届出があり、前年の 13 例と比較して大きく増加した。症例の年齢は 0 歳から 50 歳代に分布し、5-9 歳が 22 例、1-4 歳が 20 例の順に多く、両者で全体の 53.2%であった。診断方法は単一血清で抗体価の高値が 42 例、イムノクロマト法による病原体抗原の検出が 30 例、分離・同定による病原体の検出が 5 例、病原体遺伝子の検出が 4 例であった（重複例あり）。ワクチン接種歴は有りが 46 例、無しが 2 例、不明が 31 例であった。接種歴有り 46 例のうち 37 例が 4 回接種、7 例が 3 回接種、2 例が 2 回接種であった。推定感染地域は国内が 63 例、不明が 16 例であった。

19) 風しん

3 月に女 70 歳代 1 例の届出があった。病型は検査診断例、診断方法は血清 IgM 抗体の検出であった。ワクチン接種歴は、無かった。推定感染経路は不明で、推定感染地域は国内（県内）であった。

20) 薬剤耐性アシネトバクター感染症

6 月に女 50 歳代 1 例の届出があり、前年の 1 例と同値であった。血液から *Acinetobacter baumannii* が分離され、特定薬剤への耐性が確認された。90 日以内の海外渡航歴は無かった。

(6) 新型インフルエンザ等感染症

1) 新型コロナウイルス感染症

2023 年 1 月 1 日から 5 月 7 日における新型コロナウイルス感染症の日次報告数は、215, 133 例であった。

0 歳から 90 歳代以上の全ての年齢階級で報告があり、20 歳代の報告数が最も多かった。また、65 歳未満の報告は全体の 81.8%だった。

表 1-4 新型インフルエンザ等感染症の届出数

疾患名	埼玉県		
	2023年*	2022年	2021年
新型コロナウイルス感染症	215,133	1,514,702	101,396

*2024年2月21日集計

2022 年の 10 月中旬から 2023 年 3 月下旬にかけて流行が観察された。流行のピークは 2023 年の 1 月で、その後は 5 月 7 日の全数報告の終了まで大きな流行は見られなかった。ピーク時の一日当たりの最大患者数は 8,022 例であった。

(7) 獣医師が届出を行う感染症

獣医師が届出を行う感染症は、届出がなかった。

2 定点把握対象疾患の発生状況

五類感染症定点把握対象疾患の週単位報告の週別報告数、定点当たり報告数を表2-1及び2-2に、年齢階級別報告数を表3に示した。また、月単位報告の月別報告数及び定点当たり報告数を表4に、性年齢階級別報告数を表5に示した。

(1) 内科及び小児科定点（インフルエンザ/COVID-19 定点）把握対象疾患の動向

1) インフルエンザ

2023年の第1週～52週の累積報告患者数は135,836例であった。定点当たり報告患者総数528.54は前年と比べ著しく増加し、過去10年で最も多かった。2022年-2023年シーズンの流行は、前年12月から始まり、2023年第10週（3/6-12）に定点当たり報告数13.29のピークを形成した後、5月から8月にかけて例年よりや

や多い状況が続いた。第32週（8/7-13）に定点当たり報告数の最低値0.64を観察したものの、第34週（8/21-27）には再び増加し始め、定点当たり報告数は1.00以上となった。2023年-2024年シーズンは、第37週（9/11-9/17）以降、報告患者の多い状態が続き、第44週（10/30-11/5）及び第49週（12/4-10）に2度のピークを形成した。2023年の定点当たり報告数の最大値は、第44週の34.84であった。年齢階級別では、20歳未満が全体の79.5%、10歳未満は全体の50.2%であった。

2) 新型コロナウイルス感染症

2023年5月8日以降の第19週～52週の累積報告患者数は78,948例であった。定点当たり報告患者総数は306.00であった。定点当たり報告数は、報告開始当初から緩やかに増加し始め、8月に入り急増した。定点

表2-1 定点把握対象疾患の推移・患者数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	新型コロナウイルス	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)感染性胃腸炎	インフルエンザ(入院患者)	新型コロナウイルス(入院患者)
23*1	01/02	1,060	-	16	12	26	859	17	4	2	26	-	5	-	7	-	-	-	-	-	2	-
23*2	01/09	1,282	-	9	10	36	1,471	13	6	1	41	1	1	4	6	1	1	-	-	-	5	-
23*3	01/16	1,814	-	15	11	67	1,814	5	3	3	37	1	10	1	8	-	1	-	-	-	1	7
23*4	01/23	1,799	-	23	12	44	1,526	16	8	2	41	2	6	-	11	-	1	1	-	-	-	3
23*5	01/30	2,128	-	13	23	55	1,386	13	9	-	32	1	8	1	7	-	1	-	-	-	1	1
23*6	02/06	2,113	-	23	27	65	1,181	20	13	1	35	1	6	-	5	1	2	-	-	-	-	7
23*7	02/13	2,552	-	22	36	59	1,162	21	14	5	38	-	8	-	8	-	-	-	-	-	-	2
23*8	02/20	2,646	-	23	31	41	977	12	6	1	22	1	7	2	12	-	-	-	-	-	-	7
23*9	02/27	2,722	-	27	24	54	893	18	3	1	45	-	9	-	6	1	-	-	-	-	1	7
23*10	03/06	3,389	-	28	29	45	885	14	5	5	32	2	7	1	7	-	1	-	-	-	1	7
23*11	03/13	2,599	-	35	20	51	733	18	4	-	40	5	10	-	7	-	-	1	-	-	-	4
23*12	03/20	2,011	-	37	23	46	602	21	7	1	26	1	6	2	11	-	-	-	-	-	-	4
23*13	03/27	1,217	-	53	28	62	565	19	3	4	33	1	7	-	11	-	-	-	-	-	-	3
23*14	04/03	707	-	68	35	71	580	36	11	4	53	5	8	-	4	-	-	-	-	-	-	3
23*15	04/10	478	-	110	27	58	655	12	15	2	53	3	5	2	8	-	-	1	-	-	-	-
23*16	04/17	533	-	136	38	97	922	20	24	1	80	8	7	2	7	-	-	-	-	-	1	-
23*17	04/24	432	-	116	78	118	849	8	21	3	77	13	7	3	4	1	-	-	-	-	1	2
23*18	05/01	373	-	92	70	93	663	18	27	1	48	8	3	5	5	-	-	-	-	-	-	1
23*19	05/08	335	784	122	91	150	1,129	24	46	3	74	11	10	1	12	-	1	-	-	-	-	3
23*20	05/15	563	1,150	197	83	210	1,540	21	56	5	63	66	10	4	10	1	-	-	-	-	-	4
23*21	05/22	519	1,115	281	147	273	1,634	33	76	6	66	108	17	1	10	2	1	-	-	-	-	1
23*22	05/29	442	1,506	321	134	293	1,670	35	135	4	68	183	28	-	9	-	-	-	-	-	-	2
23*23	06/05	393	1,700	416	119	349	1,519	47	235	3	57	342	22	2	9	-	1	-	-	-	-	1
23*24	06/12	291	1,832	431	141	315	1,388	32	214	3	50	749	30	2	12	-	-	1	-	-	-	-
23*25	06/19	239	1,873	470	98	347	1,327	56	298	2	52	1,150	19	3	10	1	2	-	-	-	-	-
23*26	06/26	228	1,893	405	91	323	1,142	28	263	3	41	1,467	16	1	12	-	-	1	-	-	-	1
23*27	07/03	299	2,315	449	105	342	990	38	293	5	53	1,553	17	2	12	-	2	-	-	-	-	1
23*28	07/10	284	2,428	404	99	307	933	22	303	-	39	1,368	24	3	10	-	1	-	-	-	-	-
23*29	07/17	233	3,126	321	103	246	748	35	287	3	31	939	14	2	12	-	-	-	-	-	-	1
23*30	07/24	266	3,479	245	99	267	765	29	216	2	50	705	13	1	18	-	2	-	-	-	-	1
23*31	07/31	219	3,838	184	93	277	738	19	203	1	59	466	13	6	13	-	-	-	-	-	-	-
23*32	08/07	157	3,854	101	85	249	558	21	142	1	45	242	13	2	9	-	1	-	-	-	-	2
23*33	08/14	184	4,685	81	92	169	326	22	133	2	36	131	12	1	11	-	-	-	-	-	-	3
23*34	08/21	365	5,844	53	93	223	533	12	186	2	49	142	8	-	23	-	-	-	-	-	-	2
23*35	08/28	735	6,889	62	155	296	738	12	246	8	45	132	9	-	13	-	-	-	-	-	-	3
23*36	09/04	1,551	7,033	51	165	340	700	23	286	1	52	123	12	2	24	-	2	-	-	-	-	3
23*37	09/11	2,868	6,470	35	190	400	716	11	274	1	40	110	9	-	31	-	1	1	-	-	-	5
23*38	09/18	2,617	3,268	20	182	384	569	14	257	5	30	68	9	-	29	1	1	1	-	-	-	10
23*39	09/25	3,648	2,548	46	284	518	630	25	334	1	40	93	17	1	46	-	1	-	-	-	-	16
23*40	10/02	4,166	1,367	16	329	429	643	22	311	2	46	45	9	2	29	-	2	3	-	-	-	15
23*41	10/09	5,119	1,001	10	319	478	559	21	330	3	36	33	4	1	42	-	2	1	-	-	-	11
23*42	10/16	7,415	874	9	407	687	655	25	201	3	32	20	7	4	43	-	2	1	-	-	-	22
23*43	10/23	8,633	727	17	466	814	685	20	142	1	36	14	5	3	37	1	-	1	-	-	-	25
23*44	10/30	9,094	603	7	439	801	649	28	129	2	38	9	6	1	37	-	1	1	-	-	-	21
23*45	11/06	5,822	428	5	623	815	818	27	114	1	40	12	10	1	35	-	1	-	-	-	-	7
23*46	11/13	5,675	428	7	691	859	863	27	128	3	39	9	8	1	54	-	3	-	-	-	-	14
23*47	11/20	7,177	602	5	805	970	1,040	24	108	-	38	4	5	-	46	-	1	-	-	-	-	18
23*48	11/27	7,274	758	10	844	1,109	1,144	41	65	-	48	11	6	1	53	-	-	1	-	-	-	18
23*49	12/04	8,816	997	6	783	1,263	1,359	38	56	-	34	4	8	-	61	-	1	1	-	-	-	33
23*50	12/11	8,241	1,087	5	794	1,318	1,478	38	60	-	32	2	9	4	31	1	1	1	-	-	-	25
23*51	12/18	6,582	1,199	4	769	1,155	1,533	33	46	2	33	3	8	5	46	-	1	1	-	-	-	22
23*52	12/25	5,531	1,437	5	544	765	1,143	40	21	2	26	1	2	1	33	-	1	1	-	-	-	27
2023年計		135,836	78,948	5,647	10,986	18,829	50,385	1,244	6,377	117	2,278	10,368	529	81	1,016	11	39	19	-	-	6	382
2022年計		1,068	-	4,576	969	1,963	41,675	785	11,433	128	2,395	2,145	344	53	373	8	22	8	-	-	2	4
2023年/2022年比		127.2		1.2	11.3	9.6	1.2	1.6	0.6	0.9	1.0	4.8	1.5	1.5	2.7	1.4	1.8	2.4			3.0	95.5

(-:0)

表 2-2 定点把握対象疾患の推移・定点当たり報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告)

年・週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	レA群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)感染性胃腸炎	インフルエンザ(入院患者)	新型コロナウイルス感染症(入院患者)
23-1	01/02	4.34	-	0.10	0.08	0.17	5.61	0.11	0.03	0.01	0.17	-	0.03	-	0.18	-	-	-	-	-	0.18	-
23-2	01/09	5.03	-	0.06	0.06	0.23	9.19	0.08	0.04	0.01	0.26	0.01	0.01	0.10	0.15	0.09	0.09	-	-	-	0.45	-
23-3	01/16	7.11	-	0.09	0.07	0.42	10.02	0.03	0.02	0.02	0.23	0.01	0.06	0.02	0.20	-	0.09	-	-	0.09	0.64	-
23-4	01/23	7.03	-	0.14	0.07	0.27	9.48	0.10	0.05	0.01	0.25	0.01	0.04	-	0.27	-	0.09	0.09	-	-	0.27	-
23-5	01/30	8.31	-	0.08	0.14	0.34	8.61	0.08	0.06	-	0.20	0.01	0.05	0.02	0.17	-	0.09	-	-	0.09	0.09	-
23-6	02/06	8.25	-	0.14	0.17	0.40	7.34	0.12	0.08	0.01	0.22	0.01	0.04	-	0.13	0.09	0.18	-	-	-	0.64	-
23-7	02/13	9.97	-	0.14	0.22	0.37	7.22	0.13	0.09	0.03	0.24	-	0.05	-	0.20	-	-	-	-	-	0.18	-
23-8	02/20	10.38	-	0.14	0.19	0.25	6.07	0.07	0.04	0.01	0.14	0.01	0.04	0.05	0.29	-	-	-	-	-	0.64	-
23-9	02/27	10.63	-	0.17	0.15	0.34	5.55	0.11	0.02	0.01	0.28	-	0.06	-	0.15	0.09	-	-	-	0.09	0.64	-
23-10	03/06	13.29	-	0.17	0.18	0.28	5.50	0.09	0.03	0.03	0.20	0.01	0.04	0.02	0.17	-	0.09	-	-	0.09	0.64	-
23-11	03/13	10.44	-	0.22	0.13	0.32	4.64	0.11	0.03	-	0.25	0.03	0.06	-	0.17	-	-	0.09	-	-	0.36	-
23-12	03/20	7.86	-	0.23	0.14	0.29	3.74	0.13	0.04	0.01	0.16	0.01	0.04	0.05	0.27	-	-	-	-	-	0.36	-
23-13	03/27	4.79	-	0.34	0.18	0.39	3.58	0.12	0.02	0.03	0.21	0.01	0.04	-	0.27	-	-	-	-	-	0.27	-
23-14	04/03	2.72	-	0.42	0.21	0.44	3.56	0.22	0.07	0.02	0.33	0.03	0.05	-	0.10	-	-	-	-	-	0.27	-
23-15	04/10	1.85	-	0.68	0.17	0.36	4.04	0.07	0.09	0.01	0.33	0.02	0.03	0.05	0.20	-	-	0.09	-	-	-	-
23-16	04/17	2.09	-	0.84	0.23	0.60	5.69	0.12	0.15	0.01	0.49	0.05	0.04	0.05	0.17	-	-	-	-	0.09	-	-
23-17	04/24	1.68	-	0.72	0.48	0.73	5.27	0.05	0.13	0.02	0.48	0.08	0.04	0.08	0.10	0.09	-	-	-	0.09	0.18	-
23-18	05/01	1.45	-	0.56	0.43	0.57	4.07	0.11	0.17	0.01	0.29	0.05	0.02	0.12	0.12	-	-	-	-	-	0.09	-
23-19	05/08	1.29	3.03	0.75	0.56	0.92	6.93	0.15	0.28	0.02	0.45	0.07	0.06	0.02	0.29	-	0.09	-	-	-	0.27	-
23-20	05/15	2.17	4.42	1.21	0.51	1.29	9.45	0.13	0.34	0.03	0.39	0.40	0.06	0.10	0.24	0.09	-	-	-	-	0.36	-
23-21	05/22	2.00	4.29	1.72	0.90	1.67	10.02	0.20	0.47	0.04	0.40	0.66	0.10	0.02	0.24	0.18	0.09	-	-	-	0.09	-
23-22	05/29	1.69	5.77	1.96	0.82	1.79	10.18	0.21	0.82	0.02	0.41	1.12	0.17	-	0.21	-	-	-	-	-	0.18	-
23-23	06/05	1.51	6.51	2.54	0.73	2.13	9.26	0.29	1.43	0.02	0.35	2.09	0.13	0.05	0.21	-	0.09	-	-	-	0.09	-
23-24	06/12	1.11	7.02	2.63	0.86	1.92	8.46	0.20	1.30	0.02	0.30	4.57	0.18	0.05	0.29	-	-	0.09	-	-	-	-
23-25	06/19	0.92	7.18	2.87	0.60	2.12	8.09	0.34	1.82	0.01	0.32	7.01	0.12	0.07	0.24	0.09	0.18	-	-	-	-	-
23-26	06/26	0.87	7.25	2.47	0.55	1.97	6.96	0.17	1.60	0.02	0.25	8.95	0.10	0.02	0.29	-	-	0.09	-	-	0.09	-
23-27	07/03	1.15	8.87	2.74	0.64	2.09	6.04	0.23	1.79	0.03	0.32	9.47	0.10	0.05	0.29	-	0.18	-	-	-	0.09	-
23-28	07/10	1.11	9.52	2.53	0.62	1.92	5.83	0.14	1.89	-	0.24	8.55	0.15	0.07	0.24	-	0.09	-	-	-	-	-
23-29	07/17	0.89	11.98	1.96	0.63	1.50	4.56	0.21	1.75	0.02	0.19	5.73	0.09	0.05	0.29	-	-	-	-	-	0.09	-
23-30	07/24	1.02	13.33	1.49	0.60	1.63	4.66	0.18	1.32	0.01	0.30	4.30	0.08	0.02	0.43	-	0.18	-	-	-	0.09	-
23-31	07/31	0.84	14.70	1.12	0.57	1.69	4.50	0.12	1.24	0.01	0.36	2.84	0.08	0.15	0.32	-	-	-	-	-	-	-
23-32	08/07	0.64	15.60	0.65	0.54	1.60	3.58	0.13	0.91	0.01	0.29	1.55	0.08	0.05	0.23	-	0.09	-	-	-	0.18	-
23-33	08/14	0.78	19.77	0.57	0.64	1.18	2.28	0.15	0.93	0.01	0.25	0.92	0.08	0.03	0.28	-	-	-	-	-	0.27	-
23-34	08/21	1.42	22.74	0.33	0.58	1.39	3.31	0.07	1.16	0.01	0.30	0.88	0.05	-	0.55	-	-	-	-	-	0.18	-
23-35	08/28	2.83	25.73	0.38	0.95	1.82	4.53	0.07	1.51	0.05	0.28	0.81	0.06	-	0.31	-	-	-	-	-	0.27	-
23-36	09/04	5.94	26.95	0.31	1.01	2.07	4.27	0.14	1.74	0.01	0.32	0.75	0.07	0.05	0.57	-	0.18	-	-	-	0.27	-
23-37	09/11	11.03	24.88	0.21	1.17	2.45	4.39	0.07	1.68	0.01	0.25	0.67	0.06	-	0.76	-	0.09	0.09	-	-	0.45	-
23-38	09/18	10.10	12.62	0.12	1.12	2.37	3.51	0.09	1.59	0.03	0.19	0.42	0.06	-	0.69	0.09	0.09	0.09	-	-	0.91	-
23-39	09/25	13.98	9.76	0.28	1.73	3.16	3.84	0.15	2.04	0.01	0.24	0.57	0.10	0.02	1.10	-	0.08	-	-	-	1.33	3.08
23-40	10/02	16.08	5.28	0.10	2.02	2.63	3.94	0.13	1.91	0.01	0.28	0.28	0.06	0.05	0.69	-	0.17	0.25	-	-	1.25	2.50
23-41	10/09	19.69	3.85	0.06	1.95	2.91	3.41	0.13	2.01	0.02	0.22	0.20	0.02	0.02	1.00	-	0.17	0.08	-	-	0.92	1.50
23-42	10/16	28.41	3.35	0.05	2.48	4.19	3.99	0.15	1.23	0.02	0.20	0.12	0.04	0.10	1.02	-	0.17	0.08	-	-	1.83	1.50
23-43	10/23	33.08	2.79	0.10	2.84	4.96	4.18	0.12	0.87	0.01	0.22	0.09	0.03	0.07	0.88	0.08	-	0.08	-	-	2.08	3.00
23-44	10/30	34.84	2.31	0.04	2.68	4.88	3.96	0.17	0.79	0.01	0.23	0.05	0.04	0.02	0.88	-	0.08	0.08	-	-	1.75	1.58
23-45	11/06	22.31	1.64	0.03	3.80	4.97	4.99	0.16	0.70	0.01	0.24	0.07	0.06	0.02	0.83	-	0.08	-	-	-	0.58	2.25
23-46	11/13	21.74	1.64	0.04	4.21	5.24	5.26	0.16	0.78	0.02	0.24	0.05	0.05	0.02	1.29	-	0.25	-	-	-	1.17	0.92
23-47	11/20	27.50	2.31	0.03	4.91	5.91	6.34	0.15	0.66	-	0.23	0.02	0.03	-	1.10	-	0.08	-	-	-	1.50	2.17
23-48	11/27	27.98	2.92	0.06	5.15	6.76	6.98	0.25	0.40	-	0.30	0.07	0.04	0.02	1.26	-	-	0.08	-	-	1.50	1.25
23-49	12/04	33.91	3.83	0.04	4.77	7.70	8.29	0.23	0.34	-	0.21	0.02	0.05	-	1.45	-	0.08	0.08	-	-	2.75	2.42
23-50	12/11	31.57	4.20	0.03	4.84	8.04	9.01	0.23	0.37	-	0.20	0.01	0.05	0.10	0.76	0.08	0.08	0.08	-	-	2.08	2.17
23-51	12/18	25.32	4.61	0.02	4.69	7.04	9.35	0.20	0.28	0.01	0.20	0.02	0.05	0.12	1.12	-	0.08	0.08	-	-	1.83	3.92
23-52	12/25	21.95	5.70	0.03	3.42	4.81	7.19	0.25	0.13	0.01	0.16	0.01	0.01	0.03	0.83	-	0.08	0.08	-	-	2.25	3.58
2023年 計		528.54	306.00	35.07	68.30	116.95	312.95	7.73	39.61	0.73	14.15	64.40	3.29	1.98	24.78	0.98	3.48	1.70	-	0.54	34.11	31.83
2022年 計		4.27	-	28.96	6.13	12.42	263.77	4.97	72.36	0.80	15.16	13.58	2.18	1.36	9.56	0.73	2.00	0.73	-	0.18	0.36	-
2023年/2022年比		123.7	-	1.2	11.1	9.4	1.2	1.6	0.5	0.9	0.9	4.7	1.5	1.5	2.6	1.4	1.7	2.3	-	2.9	93.8	-

※表中の定点当たり報告数は、小数第3位で四捨五入

(一:0)

当たり報告数の最大値は第36週(9/4-10)の26.95であった。年齢階級別では、全体のうち20歳未満が34.8%、20歳以上が65.2%で、20歳以上では50歳代が最も多く、次いで40歳代が多かった。

(2) 小児科定点把握対象疾患の動向

1) RSウイルス感染症

2023年第1週~52週の累積報告患者数は5,647例であった。定点当たり報告患者総数35.07は前年を上回った。定点当たり報告数は3月下旬から増加し始め、8月まで多い状態が続いた。第25週(6/19-25)に観察された定点当たり報告数の最大値2.87は前年の最大値を上回った。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳が最も多く、2歳未満が全体の61.0%であった。

2) 咽頭結膜熱

2023年第1週~52週の累積報告患者数は10,996例であった。定点当たり報告患者総数68.30は前年と比べ著しく増加した。夏季流行は第21週(5/22-28)から第24週(6/12-18)にかけてやや高い水準となったが、例年に比べやや小規模であった。冬季流行は夏季流行が終息しないまま、8月下旬に増加し始め、12月まで非常に多い状態が続いた。定点当たり報告患者総数及び第48週(11/27-12/3)に観察された定点当たり報告数5.15は、感染症法に基づく調査が開始された1999年以来、最大であった。年齢階級別では全ての階級で報告があり、1歳~5歳が全体の74.6%で、特に3歳及び4歳が多かった。

定点当たり報告数の最大値とともに最も大きな流行であった。年齢階級別では全ての年齢階級で報告があり、1歳が最も多く、1歳～3歳で全体の53.4%であった。

10) 流行性耳下腺炎

2023年第1週～52週の累積報告患者数は529例であった。定点当たり報告患者総数3.29は前年と同水準であった。定点当たり報告数の最大値は、第24週(6/12-18)の0.18で、年間を通して際立った報告数の増加は観察されなかった。年齢階級別では6か月未満を除く階級で報告があり、5歳が最も多く、次いで6歳、4歳と報告数が多かった。

(3) 眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

2023年第1週～52週の累積報告患者数は81例であった。定点当たり報告患者総数1.98は前年と比べ増加した。報告は年間を通して断続的に観察された。定点当たり報告数の最大値は、第31週(7/31-8/6)の0.15であった。年齢階級別では、3歳、1歳、4歳の順に多かった。

2) 流行性角結膜炎

2023年第1週～52週の累積報告患者数は1,016例であった。定点当たり報告患者総数24.78は前年と比べ著しく増加した。定点当たり報告数の最大値は第49週(12/4-10)の1.45で、定点当たり報告数は1月～8月までは低い水準で推移したものの、9月上旬から増加し始め、9月下旬以降は多い状態が続いた。年齢階級別では、全ての階級で報告があり、10歳未満では3歳が最も多く、20歳以上では30歳代、40歳代の順に多かった。

(4) 基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

2023年第1週～52週の累積報告患者数は11例であった。定点当たり報告患者総数0.98は前年と同水準であった。報告は散発的で、1例以上の報告があった週が10週あった。年齢階級別では、55歳以上が7例で63.6%であった。

2) 無菌性髄膜炎

2023年第1週～52週の累積報告患者数は39例であった。定点当たり報告患者総数3.48は前年と比べ大きく増加した。報告は年間を通して断続的に観察され、

52週のうち29週で1例以上の報告があった。定点当たり報告数の最大値は、第46週(11/13-19)の0.25であった。年齢階級別では20歳未満が41.0%、20～70歳未満が48.7%、70歳以上が10.3%であった。また、0歳が12例で最も多かった。

3) マイコプラズマ肺炎

2023年の第1週～52週の累積報告患者数は19例であった。定点当たり報告患者総数1.70は前年と比べ増加した。報告は断続的で、1例以上の報告があった週が17週あった。年齢階級別では5-9歳が6例で最も多く、次いで10-14歳が4例で多かった。20歳未満が全体の63.2%であった。

4) クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2023年第1週～52週の患者の報告はなかった。報告患者数は2018年が4例、2019年が1例で、2020年以降は報告がない。

5) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)

2023年第1週～52週の累積報告患者数は6例であった。定点当たり報告患者総数0.54は前年と同水準で、1月から5月にかけて患者が報告されたものの、流行は確認されなかった。報告患者数は5-9歳が3例、0歳が2例、1-4歳が1例であった。

6) インフルエンザ(入院患者)

2023年第1週～52週の累積報告患者数は382例であった。定点当たり報告患者総数34.11は前年と比べ著しく増加した。2022-2023シーズンの報告は、前年12月から5月まで続き、2023-2024シーズンはシーズン開始当初から3例の報告があった。9月中旬から増加し始め、定点当たり報告数の最大値2.75は、第49週(12/4-10)に観察された。年齢階級別では、10歳未満が40.8%、70歳以上が28.8%であった。

7) 新型コロナウイルス感染症(入院患者)

2023年9月25日以降の第39週～52週の累積報告患者は382例であった。定点当たり報告患者総数は31.83であった。年齢階級別では、70歳以上が265例で最も多く、69.4%であった。

表 4 定点把握対象疾患の推移(基幹定点・性感染症定点 月単位報告)

月別	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ヘビシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	15	1.36	-	-	1	0.09	109	1.85	36	0.61	20	0.34	33	0.56
2月	12	1.09	2	0.18	1	0.09	111	1.88	39	0.66	29	0.49	18	0.31
3月	9	0.82	-	-	-	-	153	2.59	54	0.92	30	0.51	38	0.64
4月	8	0.73	1	0.09	-	-	110	1.90	46	0.83	25	0.43	29	0.50
5月	13	1.18	4	0.36	-	-	143	2.47	46	0.79	20	0.34	27	0.47
6月	19	1.73	5	0.45	-	-	140	2.46	38	0.67	21	0.37	31	0.54
7月	16	1.45	3	0.27	-	-	162	2.84	50	0.88	24	0.42	32	0.56
8月	13	1.18	7	0.64	-	-	140	2.41	39	0.67	17	0.29	30	0.52
9月	11	0.92	3	0.25	-	-	150	2.59	46	0.79	18	0.31	24	0.41
10月	21	1.75	1	0.08	-	-	143	2.47	52	0.90	27	0.47	33	0.57
11月	24	2.00	4	0.33	-	-	122	2.10	49	0.84	27	0.47	22	0.38
12月	17	1.42	5	0.42	-	-	112	1.93	33	0.57	20	0.34	21	0.36
2023年 計	178	15.75	35	3.10	2	0.18	1,595	27.50	530	9.14	278	4.79	338	5.83
2022年 計	279	25.36	16	1.45	5	0.45	1,613	27.57	495	8.46	235	4.02	297	5.08
2023年/2022年比	0.6	0.6	2.2	2.1	0.4	0.4	1.0	1.0	1.1	1.1	1.2	1.2	1.1	1.1

(- : 0)

表5 性年齢階級別報告数(基幹定点・性感症定点 月単位報告)

年齢階級	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症		性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳	4	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	2	1	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5-9歳	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10-14歳	1	-	-	-	-	-	-	2	-	5	-	-	-	1
15-19歳	-	-	-	-	-	-	32	122	2	21	3	13	15	18
20-24歳	-	-	-	1	-	-	119	361	10	73	16	43	61	35
25-29歳	1	-	-	-	-	-	114	256	12	73	18	31	32	12
30-34歳	-	2	-	-	-	-	61	140	13	59	17	35	23	10
35-39歳	-	4	-	-	-	-	64	83	16	53	6	12	30	6
40-44歳	1	-	-	-	-	-	48	35	10	38	8	9	30	5
45-49歳	-	-	-	-	-	-	44	37	13	26	13	6	30	2
50-54歳	7	3	-	1	-	-	26	18	11	36	9	8	7	-
55-59歳	10	1	-	-	-	-	16	5	5	18	8	4	11	2
60-64歳	9	2	-	-	-	-	4	1	1	8	10	-	-	1
65-69歳	4	3	2	-	-	-	4	2	1	5	3	1	4	2
70歳~	76	42	14	7	2	-	1	-	5	16	3	2	1	-
合計	118	60	19	16	2	-	533	1,062	99	431	114	164	244	94
男女比	1.97	1.00	1.19	1.00			0.50	1.00	0.23	1.00	0.70	1.00	2.60	1.00

(-:0)

8) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2023年1月~12月の累積報告患者数は178例であった。定点当たり報告患者総数15.75は前年に比べ減少した。年間を通して患者報告はあり、定点当たり報告数は最小値0.73、最大値2.00の範囲で推移した。最大値は前年の最大値2.73を下回った。年齢階級別では、70歳以上が118例(男:76例,女:42例)で最も多く、全体の66.3%であった。

9) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2023年1月~12月の累積報告患者数は35例であった。定点当たり報告患者総数3.10は前年と比べ大きく増加した。報告は年間を通して断続的に観察され、定点当たり報告数は最小値0.00、最大値0.64の範囲で推移した。最大値は前年の最大値0.36を上回った。年齢階級別では、70歳以上が21例(男:14例,女:7例)で、全体の6割を占めた。

10) 薬剤耐性緑膿菌感染症

2023年1月~12月の累積報告患者数は男2例であった。定点当たり報告患者総数0.18は前年に比べわずかに減少した。報告は1月及び2月に各1例で、定点当たり報告数の最大値0.09は、前年の最大値を下回った。年齢階級別では、70歳以上が2例であった。

(5) 性感症定点把握対象疾患の動向

1) 性器クラミジア感染症

2023年1月~12月の累積報告患者数は1,595例(男533例,女1,062例,性比0.50)であった。定点当たり報告患者総数27.50は前年と同水準であった。定点当たり報告数は最小値1.85、最大値2.84の範囲で推移した。男の報告患者の多い年齢階級は、20-24歳の119例、25-29歳の114例であった。女の報告患者の多い年齢階級は20-24歳の361例、25-29歳の256例で、女全体の58.1%であった。

2) 性器ヘルペスウイルス感染症

2023年1月~12月の累積報告患者数は530例(男99例,女431例,性比0.23)であった。定点当たり報告

患者総数9.14は前年に比べ増加した。定点当たり報告数は最小値0.57、最大値0.92の範囲で推移した。男の報告患者の最も多い年齢階級は、35-39歳の16例であった。女の報告患者の多い年齢階級は20-24歳及び25-29歳の各73例、30-34歳の59例、35-39歳の53例で、女全体の59.9%であった。

3) 尖圭コンジローマ

2023年1月~12月の累積報告患者数は278例(男114例,女164例,性比0.70)であった。定点当たり報告患者総数4.79は前年に比べ増加した。定点当たり報告数は最小値0.29、最大値0.51の範囲で推移した。男の報告患者の多い年齢階級は、25-29歳の18例、30-34歳の17例、20-24歳の16例であった。女の報告患者の多い年齢階級は20-24歳の43例、30-34歳の35例、25-29歳の31例で、女全体の66.5%であった。

4) 淋菌感染症

2023年1月~12月の累積報告患者数は338例(男244例,女94例,性比2.60)であった。定点当たり報告患者総数5.83は前年に比べ減少し、1999年の感染症法施行以降、最少となった。定点当たり報告数は最小値0.31、最大値0.64の範囲で推移した。男の報告患者の最も多い年齢階級は20-24歳の61例であった。女の報告患者の最も多い年齢階級は20-24歳が35例であった。

(6) 感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

2023年の埼玉県における発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状または神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものの届出はなかった。

まとめ

2023年の感染症発生動向調査に基づく患者届出について

て、各疾患別にその動向をまとめた。

全数把握対象疾患の二類感染症では、結核が 761 例の届出があった。無症状病原体保有者を除く結核患者数は 522 例で、届出数、患者数ともに前年を上回った。

三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症は前年に比べ増加し、2021 年以降増加傾向にある。

四類感染症は、E 型肝炎、A 型肝炎、エムボックス、オウム病、つつが虫病、デング熱、マラリア、ライム病、レジオネラ症の計 9 疾患の届出があった。前年まで発生のなかったエムボックスは、2023 年は 5 例の届出があった。

五類感染症の全数把握対象疾患は、アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎 (E 型・A 型を除く)、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く)、急性脳炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、ジアルジア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘 (入院例)、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、百日咳、風しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症の計 20 疾患の届出があった。劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 64 例の届出があり、感染症法に基づく調査が開始された 1999 年以来、最大となった。

定点把握対象疾患の定点当たり報告患者総数は、多くの疾患で前年より増加した。特に咽頭結膜熱と A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎では、感染症法に基づく調査が開始された 1999 年以来、最大であった。

新型コロナウイルス感染症は、2023 年 1 月と 9 月に流行のピークがみられた。